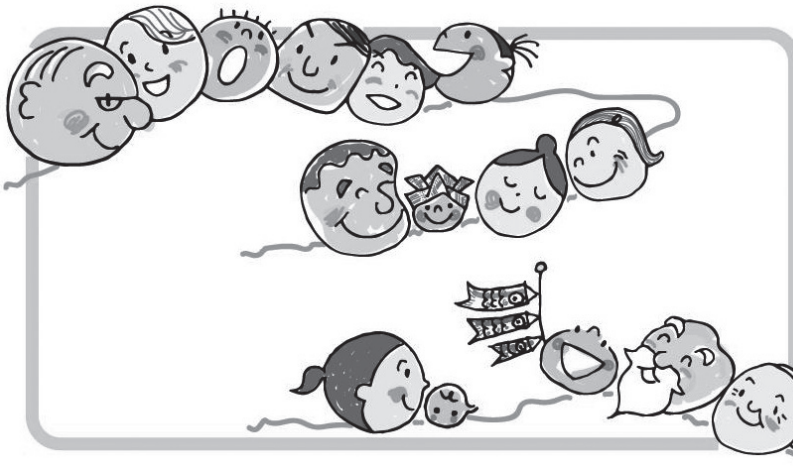


基本理念

「笑顔あふれ、光り輝く町を！」

～誰もが支え合い昔ながらの「共生（ともいき）」の精神で、
あたたかくて、ぬくもりのあるまち～



各世代が安心して
暮らせるまち
共生社会の実現

漁業振興

ものを守りつつ、次の時代に対応する新しい道も築くことができればと考えています。
具体的な内容等については、各分野における施策の中で申し上げます。
それでは、主な施策について申し上げます。

はじめに、基幹産業であります漁業は、令和3年は数年ぶりにスケトウダラが豊漁となり、漁港の賑わいを見せていましたが、最盛期の価格が低迷し、また、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、各魚種の価格安や鮭・天然昆布の不漁など、依然として、厳しい状況が続いています。
漁業の振興には、漁業の魅力向上が何よりも重要であることから、漁業振興事業の精査をし、今まで以上

に漁業協同組合など各関係機関との連携を密にし、生産性と漁業所得の向上により、効果的な事業の展開を目指していきます。

中でも浅海資源であります昆布が著しく減少していますので、ブルーカーボンでもある、藻場の造成を図るため、国の第5次漁港漁場整備計画に基づき、噴火湾周辺地区特定漁港漁場整備事業により、大岩地区への囲い礁整備をはじめ、新たに、昆布母藻群落造成事業を展開しながら、モニタリングもしっかりと行い、手法選定や改善ができるよう、引き続き各機関との連携のもと、昆布増産対策に取り組んでいきます。
また、今後も自主的な資源管理など持続可能な漁業、いわゆる「育てる漁業」は必要不可欠でありますので、試験的に取り組んでいますカキ養殖を始め、カーボンニュートラルに寄与し、天

候などにも左右されにくい、陸上での新たな海藻などの養殖試験事業にも取り組んでいきます。

なお、資源の枯渇については、漁船漁業においても同様であり、昨年に引き続き、魚礁整備や漁業者の所得向上を図るため、付加価値向上を目指し、人材育成や安心安全な水産物の供給体制の構築と水産情報発信に取り組み、その日の漁模様が一喜一憂しない、盤石な漁業体制づくりに邁進していきます。
漁港整備につきましては、懸案である本別漁港新港の振れ込み対策として進めていました、北防波堤延伸工事が令和3年度で完了し、令和4年度はマイナス3.0m岸壁50mの改良工事が行われる予定ですが、確実な事業実施と早期完成を北海道に對し要望し、また、水産物供給基盤機能保全事業を活用し、漁港機能を維持す